

高連協研究事業

「女一生の働き方」アンケートから見えてきたこと

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事 木村民子

アンケートからは、ほぼ私と同年代の高齢女性の人生模様が率直に語られ、興味深く読ませていただきました。回答してくださった方々の仕事内容も多岐にわたっていることや、時代の変遷も読み取れ、貴重な資料となったのではないのでしょうか。

特にアンケートの項目1. **働いてきてうれしかったこと、悔しかったこと**など、当時の心情まできめ細かく踏み込んで聞いていることは類を見ないと思われまます。

うれしかったことの中で印象に残ったことは、概して70代後半から80代の高学歴の女性の就労状況、勤続年数に関して、高い自負心が見られたことです。例えば、

- ・38年間の公立学校勤務で、大部分が、知的障害児の養護学校(現在は支援学校)でしたので、毎日が新しい発見で、楽しく元気で働け、ありがたい事です。(86歳 札幌市)
- ・結婚、子育て(保育所が職場にあった)、学童保育など、夫と母の協力と、職場の協力があり、65歳まで看護師として働く事ができた。(82歳 山梨県)
- ・結婚して10年、専業主婦として子育てをしながら、悶々としていました。下の子供が小学2年生になり、再就職。家から近く、子供を送り出してから出勤できる職場を選び、約30年勤務し65歳で退職。開放感でいっぱいです。(71歳 神奈川県)

一方**悔しかったこと**については、以下抜粋して挙げます。

- ・戦前は、既婚か就労していない成人女子は、挺身隊として徴用され、軍需工場に派遣された。同期生は皆日立や日本鋼管に勤務(挺身隊と同じ業務)。8時間勤務で、月給54円。私は、保険会社に縁故入社して月給30円。しかし、戦後、軍需工業にいった女子は全部雇い止め。戦地から男子が帰国したので、女子はほとんど再就職不可能だった。
- ・生涯非常勤、パート労働者で国民年金のみ。(東京都)
- ・10年以上のキャリアのある自分より、新卒の何もわからない男性が上司になったこと。(新潟県)
- ・友人の息子に生命保険の外務員に対する一般風評により侮辱されたこと。女性の営業職に対する偏見は何度も味わいました。(48歳 埼玉県)

これらの悔しい思いは次の4. **女性であることを理由に、就職の際や職場において差別された経験?**の設問の回答と通底しているようです。

・お茶出しは、朝の打ち合わせ時など、新任と最年長女性のみが担当した。(61歳 宮城県) …そうでしたね。私も経験しました。朝のお茶くみばかりでなく・煙火の灰皿の始末、夕方の清掃等も女性の役割という回答もありました。

・昭和53年頃に働いていたとき、上司の見ていた役職一覧表に「部長、課長、係長」とある中「女子」という項目を見つけたとき、女子なので役職外ということがはっきり。嫁入り前の腰掛け仕事という扱いでした。(60歳 神奈川県)

・新しい得意先に、私が責任者で男性の部下を連れて伺った時、営業の方に、「女性でなく、男性の担当にしてほしい」と要望があり、チームを交替し、そのチームに私の案を譲って活かしてもらった。

(73歳 東京都)

・名刺交換で女性には名刺を配られない。おつきあいをすれば、契約をする … と言われた。(76歳 埼玉県)

・在職時、昼休みに組合の集会が行われた。会場が狭いので女性は遠慮するのが習わしとなっていた。

・今から30年前位ですが、組織を自立させる事に対して反対され異動の対象になった。

この女性差別の質問に関しては、多くの回答が寄せられていますので、それらを私なりにまとめてみますと、次のようなキーワードが上がってきました。なお、他の設問に対する回答からも差別を指摘する発言が多々見られますので、ここに列挙してみます。

・結婚退職・非常勤の働き方(非正規雇用)・女性ならではの職場(職種)の使い捨て・男女の賃金格差・職場での昇進の壁・年収による年金格差・社会保険のない職場での雇用・セクハラ、パワハラ
・妊娠、出産時の退職・男性の育休取得率の低さ・選択的夫婦別姓が認められないなど。

これらの解決策として当然3. 男性に望むこと(家庭内、企業、国の施策なども含めて)の設問を設けています。この回答の中で・性別役割分業の考え方が諸悪の根源と断言している回答がありました。他にも・(男女の)性別役割分担意識を変えること・ジェンダー平等の推進を上げている例が少なくありません。また企業の管理職や国会議員に対しては、クォータ制の導入の主張も見られました。

順番は逆ですが、2. 人生100年時代の望ましい「女一生の働き方」についての質問には 以下のような前向きな姿勢が感じられました。

・ワークライフバランスだと思います。家事・育児・介護等、余裕を持って仕事もできれば人生は楽しい。労働時間、収入、ベーシックインカムのこと考えてみたい。(新潟県)

・人と会う機会、コミュニケーションをとること、生涯収入を少しでも得られるように考えておくことも大事。

・「自分自身の人生をどう生きるか」「何を社会に還元するか」そのためにはどんな資格や力を具体的に持つか!何よりも強い意志が必要でしょう。結婚や育児で悩みつつ自分の生き方、働き方をどのように

貫いていくか、具体的にぶつかって解決を、夫や家族や社会や企業や制度とまだまだ闘いながら求めているのが実際だと思います。(80歳 北海道)

この設問では書ききれなかった方から7.「女一生の働き方」についてお考えになっていることに関する回答も多く寄せられ、**具体的支援**などは未来への提言として傾聴に値しますので、いくつか紹介します。

・出産や育児で産休育休を安心して取得でき、戻ってこられる環境、そのためには、女性だけが育休をとるのではなく、男性も(強制的にも)育休をとるようにすれば、「女性は長期に休む可能性があるから仕事を任せられない」という考えはなくなる。(55歳 大阪府)

・①同一価値労働・同一賃金を確立し、時間単価は正規・非正規同一にして、働く時間を自由に選べることが大事:労働時間の短縮とともに。②育児・介護を仕事をしながら男女ともに担っていける制度や一層の支援策が必要。そのためにも、保育士・介護労働者の処遇改善は不可欠。③年齢に関係なく仕事を続ける事が出来る多様な働き方の選択肢が必要。

・1. 就労するまでに、様々な経験、体験、学びなどが重要。(土台作りに)日本は、出自に左右されるので、せめて20歳以下の全員に、医療、学費(給食費を含む)を現物支給にする。これにより、親権を弱め、親子関係の縛りを緩めることになるのではないかと。

2. 誰のために働くのか、私のため、社会、公共のためだ。親や子供、夫など家族のためではない。ヤングケアラーや、介護離職などをなくすためには、社会保障の充実が求められる。家族主義はいらない。(61歳 宮城県)

・配偶者控除反対。日本国民の20歳以上が皆働く事。学生は、アルバイトで社会を知る。女性は資格や教育で手に職をつけるといった教育が大切である。

・支援については、単に幼稚園、保育所、学童のみならず、中高年の人達を対象に育児に関わる指導、教育を受けた人材の育成をした上で活躍の場を考えてもよいのではないかと思います。多くの知識、経験を有する人達に新たな活動の場を開くことが世代間の交流を生み、よい循環を作るのではないかと考えています。(76歳 北海道)

・私は2人の息子の母親なので、それぞれにパートナーや子どもや仕事を持っている彼女達(いわゆるお嫁さん)の生き方はがんばっているなど心から応援したい。保育所の整備、学童保育、いろいろなことがかかっていることを見るとやはり日本で男女平等にすることがいかに大変かということがよくわかります。(80歳 北海道)

・保育所が整備されていても、子供の具合が悪くなった時の対応、母親の残業になった時の対応が必要。保育所だけでなく、児童ホームもしっかり。保育所の前に産前産後のケアもしっかり。女性が生きやすいように(もちろん男性もですが)、官民一体で生きやすい社会をつくっていかねばならない。そのためにとっても重要なことは、政治家、行政のリーダー、地域団体のリーダーにもっと女性が増えなければ

ならない。

全て同感です。このようなそれぞれの方の半生に根差した意見を汲み取り、ぜひ政策に活かして欲しいと切に望みます。

以上